



九州大学・イリノイ大学アーバナシャンペン校
 戦略的パートナーシップ・コロキウムシリーズ
 デジタルトランスフォーメーション(DX)時代
 のデータキュレーションと情報管理



開催日時 2021年12月9日(木) 9:00 - 11:30(日本時間:JST)
 2021年12月8日(水) 18:00 - 20:30(米国中部標準時:CST)

参加申込 https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_yhOFIwpZQhuZUoKxkMYPzA

当ワークショップは、イリノイ大学アーバナシャンペン校と九州大学のパートナーシップに焦点を当て、現代の情報氾濫がもたらす、研究・教育の課題への対応策を提示します。イリノイ大学情報科学部・九州大学大学院統合新領域学府、イリノイ大学図書館・九州大学附属図書館の共同研究の枠組みに基づき、各プレゼンテーションが行われ、その後、パネルディスカッションが行われます。

共同モデレーター

- J. Stephen Downie (イリノイ大学 HathiTrust研究センター長、研究担当副学部長、教授)
- 石田栄美(九州大学 九州大学ライブラリーサイエンス専攻(iSchool)、附属図書館研究開発室、准教授)

日本時間: JST	中部標準時: CST	プログラム	講演者
9:00-9:05 AM	6:00-6:05 PM	開会挨拶 (イリノイ大学アーバナシャンペン校)	Susan Martinis (イリノイ大学アーバナシャンペン校 理事・副学長、分子・細胞生物学教授)
9:05-9:10 AM	6:05-6:10 PM	開会挨拶 (九州大学)	河野俊行 (九州大学 理事・副学長、法学研究院教授)
セッション 1			
9:10-9:20 AM	6:10-6:20 PM	講演 #1	Heidi Imker (イリノイ大学図書館 リサーチデータサービス部門長、准教授)
9:20-9:30 AM	6:20-6:30 PM	講演 #2	Chris Wiley (イリノイ大学工学図書館 工学・物理専門リサーチデータサービス図書館員、准教授)
9:30-9:40 AM	6:30-6:40 PM	講演 #3	William H. Mischo (イリノイ大学工学図書館・暫定館長、名誉教授)
9:40-9:50 AM	6:40-6:50 PM	講演 #4	富浦洋一 (九州大学 附属図書館副館長、システム情報科学研究院教授)
9:50-10:05 AM	6:50-7:05 PM	質疑応答	
セッション 2			
10:05-10:15 AM	7:05-7:15 PM	講演 #5	Ted Underwood (イリノイ大学 情報科学・英文学教授) Glen Worthey (イリノイ大学 HathiTrust 研究センター 研究支援サービス副部長)
10:15-10:25 AM	7:15-7:25 PM	講演 #6	Kate McDowell (イリノイ大学 情報科学部 准教授) Matthew Turk (イリノイ大学 情報科学部 助教授)
10:25-10:35 AM	7:25-7:35 PM	講演 #7	Allen Renear (イリノイ大学 情報科学部 教授、プロボスト室・戦略的取組特別アドバイザー)
10:35-10:45 AM	7:35-7:45 PM	講演 #8	石田栄美 (九州大学 ライブラリーサイエンス専攻(iSchool)、附属図書館研究開発室 准教授)
10:45-11:25 AM	7:45-8:25 PM	パネルディスカッション、 質疑応答	全ての講演者 モデレーター: Michael Twidale (イリノイ大学 情報科学部 教授、PhD プログラム・ダイレクター)
11:25-11:30 AM	8:25-8:30 PM	閉会挨拶	久保智之 (九州大学 副学長・附属図書館長)



九州大学・イリノイ大学アーバナシャンペン校
戦略的パートナーシップ・コロキウムシリーズ
デジタルトランスフォーメーション(DX)時代
のデータキュレーションと情報管理

抄録

講演#1 (イリノイ大学図書館)

高被引用論文に関連するデータの再利用についての自己申告型調査

Heidi Imker(イリノイ大学図書館 リサーチデータサービス部門長、准教授)、(共著者: Hoa Luong, William H. Mischo, Mary C. Schlembach, Chris Wiley)

抄録: このライトニングトークでは、最近終了した、高被引用論文に関連するデータの再利用についての研究について発表します。まず、イリノイ大学アーバナシャンペン校で、9つのSTEM分野で高被引用論文を発表した著者を調査した経緯を説明します。この調査の目的は、論文のためにデータが作成されたかどうか、また著者が他の研究者によりデータが再利用されている事実を知っているかどうかを調べることでした。次に、これらの高被引用論文を引用した著者を対象に、論文のデータを再利用したかどうか、そのデータはどのようにして得られたのかを調査した方法を紹介합니다。このプロジェクトの目的は、実務上のデータの再利用について理解を深め、最初に出版された論文の研究データが後続の論文で再利用されているかどうかを調べることでした。その結果、多くの場面で再利用が行われていることが明らかになりましたが、調査結果と研究者からのコメントから、データはすべての研究で同じ役割を果たしているわけではなく、また、以前の研究を基にした研究でさえも同じ役割を果たしていないことが示されました。

講演#2 (イリノイ大学図書館)

ビッグデータの概要: 研究者の経験談

Chris Wiley(イリノイ大学工学図書館 工学・物理専門リサーチデータサービス図書館員、准教授)

抄録: このライトニングトークでは、最近終了した、ビッグデータとデータサイエンスの役割を探る研究を紹介します。この研究の目的は、教員や研究者がどのようにデータを取得・活用し、その過程でどのような課題に直面しているのかを実践的に紹介することです。この応答は、研究者がどのようにビッグデータを定義し、技術的資源を活用し、ビッグデータを共有しているかを知る機会となりました。また、情報専門家にとっては、研究・収集・分析・研究コミュニケーション・研修・研究支援などの文脈で、サービスを拡大・創造する機会を学ぶ機会となりました。

講演#3 (イリノイ大学図書館)

学術雑誌論文・文献と、それを支えるデータ及びデータセットリポジトリとのリンク

William H. Mischo(イリノイ大学工学図書館・暫定館長、名誉教授)、(共著者: Mary C. Schlembach)

抄録: イリノイ大学図書館では、検索された学術文献に付加価値のあるコンテンツリンクを提供するEasy Searchと呼ばれる情報発見・配信システムを開発しています。その中でも特に力を入れているのが、雑誌論文のレコードと、著者が論文を書く際に生成または使用した補助データとのリンクです。このデータは通常、個別のデータセットリポジトリに保存されます。Easy SearchはProject Scholix APIを使用して、検索・表示された論文に関連するデータセットのリンクを動的に取得し、ユーザーに提示します。論文のDOIは、リンクされたオープンデータの相互接続の要素として機能します。



九州大学・イリノイ大学アーバナシャンペーン校 戦略的パートナーシップ・コロキウムシリーズ

デジタルトランスフォーメーション(DX)時代 のデータキュレーションと情報管理

講演#4 (九州大学)

九州大学における研究データ管理推進への挑戦

富浦洋一(九州大学 附属図書館副館長、システム情報科学研究院教授)

抄録:九州大学では、研究データ管理を支援する組織を整備する計画である。本講演では、この計画を簡単に説明し、研究の公正性のための適正な研究データ管理とオープンデータを推進するにあたっての、支援システム面、人的支援面、および研究者の意識に関する課題について述べる。

講演#5(イリノイ大学情報科学部)

数百万の書籍とデジタル資料:どのように管理・キュレーションして活用するか

Ted Underwood(イリノイ大学 情報科学・英文学教授)

Glen Worthey(イリノイ大学HathiTrust研究センター 研究支援サービス副部長)

抄録:HathiTrustは、これまでに作成された中で最大の学術的なデジタルライブラリであり、何百年も前に出版された様々な言語・トピックの約1750万冊のデジタル化された書籍を収録しています。数多くの大学や企業の努力が結集されており、世界中の読者や研究者に向けて一括管理、キュレーションされています。他に類のない人類の知識のリポジトリであると同時に、データソースとして、データサイエンスやデジタルヒューマニティーズなどの新しいアプローチによる知識の生産に適しています。本講演では、革新的な大規模研究を可能にした数多くの「デジタルトランスフォーメーション」(紙からデジタルへ、非構造化テキストから高度に構造化された拡張データへ、著作権制限からオープンアクセスへ)のいくつかを紹介しながら、HathiTrustの歴史と理念、それに基づいて成長してきた派生データやサービスを紹介します。

講演#6(イリノイ大学情報科学部)

公正な情報管理としてのデータストーリーテリング

Kate McDowell(イリノイ大学 情報科学部 准教授)

Matthew Turk(イリノイ大学 情報科学部 助教授)

抄録:データストーリーテリングは、視覚的・物語的な戦略を用いて見識を整理し、記憶に残りやすく実用的な方法でデータ分析を分かりやすく表現するものです。過去5年間、このコースの学生は、倫理、ストーリーテリング・ダイナミクス、視覚的なデータ探索、そして公正さに焦点を当てながら、様々な聴衆やアプリケーションのために、ストーリーを通してデータを解釈することを学びました。



九州大学・イリノイ大学アーバナシャンペーン校
戦略的パートナーシップ・コロキウムシリーズ
デジタルトランスフォーメーション(DX)時代
のデータキュレーションと情報管理

講演#7(イリノイ大学情報科学部)

データキュレーション教育:2つのコース例とその振り返り

Allen Renear(イリノイ大学 情報科学部 教授、プロボスト室・戦略的取組特別アドバイザー)

抄録:情報科学部では、長い間、データキュレーションの研究と教育に力を入れてきました。Dr. Renear氏は、異なる方法・対象者・配信方法で行われている、データキュレーションの基礎を紹介する2つのコースについて説明します。1つ目は、図書館情報学の修士課程におけるプログラムで、受講生が、大学図書館・政府機関・企業・研究所・その他の組織で、データキュレーションサービスを提供または監督する仕事に就くことを、もしくはすでに就いていることを想定しています。2つ目は、コンピュータサイエンス学科のデータサイエンス修士課程におけるプログラムで、ほとんどの受講生は、すでにアナリスト・ソフトウェアエンジニア・科学者などとして、技術的な役割を担っています。一つ目のMS/LISコースは、少人数の対面式クラスと少人数の同期型オンラインクラスで実施されてきました。二つ目のMCSのデータサイエンスコースは、オンライン学習サイトであるCourseraを利用した非同期型のクラスで、年間約300人の受講生がいます。この2つのコースは、データキュレーション教育の可能性の幅を理解するのに役立ちます。

講演#8(九州大学)

日本の大学において研究データ管理を実現させるための研究

石田栄美(九州大学ライブラリーサイエンス専攻(iSchool)、附属図書館研究開発室 准教授)

抄録:日本の大学では、研究データを適切に、また効率よく管理できる体制の整備が求められている。本講演では、研究データ管理サービスの日本型モデルの構築やそれらを担う人材の育成プログラムの重要性について述べる。また、DX時代の研究プロセスの変化を踏まえた研究データ管理の在り方に関する議論の必要性についても言及する。

[CLICK TO VIEW SPEAKER BIOS](#)



KYUSHU
UNIVERSITY



UNIVERSITY OF
ILLINOIS
URBANA-CHAMPAIGN

問合せ先

イリノイ大学国際部

Eメール:iip-globalrelations@illinois.edu